

2012年6月7日

栗木 成治

今日は東北事務局の宮田スタッフは静岡から駆けつけたボランティア杉山さんと一緒にエコライス号（2tトラック）に乗って長岡まで永谷園のアンパンマンカレーと郡山の米粉麺をとりに行っています。大船渡着は明日8日、2tのレンタカーに乗り換えて帰ってくる予定です。

さて、栗木は「震つな」から借りた日本財団のROADプロジェクトのベンツ車（なんと！憧れのベンツです・苦笑、ジープですが、車に違いはない）、左ハンドルにもようやく慣れて、走り回っています。



気仙教育会館

ベンツと愛知から走ってきたレンタ・トラック

昨日、釜石市を訪ねたので、今日は釜石にある保育園への訪問です。

釜石市には10の保育園がありましたが、2ヵ園が津波で被害にあい開園されていません。子どもたちは慣れない園にそれぞれチリヂリに10人から10数人単位で別の保育園に通っているそうです。

10ヵ園の内、公立は1つしかなく、他は私立の保育園でした。

7日は、6つの園を訪ねることができ、5つの園で園長先生らとお会いすることができました。

公立の園はアレルギーの子は3人で1人はアトピーの子、2人は生卵とマヨネーズはダメだが加熱卵ならOKで、支援物資は「除去はしていないので支援の必要な保育園にお渡してください」ことでした。医師によって診断が違うことと、保育園で除去しても家庭では（除去）していないこともあり、保護者との意思疎通が難しいとのことでしたので、「**ぜん息予防のためのよくわかる食物アレルギーの基礎知識**」とアレルギー学会が作成したパンフなどをお送りし、保護者の方に渡していただくことになりました。

6つの園では全ての保育園に何人かのアレルギーっ子がいることが分かりました。

アレルギーの子と他の子が一緒に食べられるカレーと米粉麺を使った名取市で行った試食会の調理を話すと、どの栄養士さんも「作ってみたい」といわれ、「アレルギーの子も含めてみんなと一緒に食べられる給食をぜひ作ってください。」とお願いし、3回分程度の給食材料となる支援物資をお渡すことができました。



釜石神愛幼児学園
園長先生と栄養士さん
卵・乳のアレルギーっ子
が2人いる。菓子も渡す
と喜ばれました。

中妻子どもの家保育園

被災した子どもが毎日13人ぐらい来るとのこと。
写真をとると、栄養士さんらが「園長先生代表で」
と。玄関でカレーを持っていただいているところを映
しました。



中妻子どもの家保育園

小佐野保育園

小麦、ピーナッツなどのアレルギー
っ子が9人いるという。「支援物資
を少しいただいたが、給食やおやつ
に使用ないので残っている。」
「米粉麺のカレーは一度作ってみ
たい」と栄養士さん。
レシピを送ると約束。



小佐野保育園



釜石保育園平田分園

釜石保育園平田分園
 アレルギーの子が1人で、3歳までの保育で24人の園児という園。
 離乳食用のおかゆと米粉麵、米麵をお渡りする。
 「写真を撮らせてください」とお願いすると、保育士さん呼び園長先生も子どもを抱っこし、撮影。調理担当の先生も一緒にと、みんなで撮りました。

釜石市内、港に近いところは未だに大きな傷跡を残したまま。復興には程遠い



瓦礫の粉塵だけでなく街のいたるところに白い粉、消石灰か？喘息発作がでて当然



国道の下がった道では大きな津波浸水想定区域の看板が目立つが...